

ばんたね ネットワーク



新任教授の紹介

藤田医科大学ばんたね病院 内科学講座 主任教授
稲熊 大城



令和2年9月1日付で、藤田医科大学病院よりばんたね病院へ赴任いたしました稲熊と申します。専門は腎臓内科ですが、このたびばんたね病院では内科学講座が新設され、初代の主任教授を拝命いたしました。ご存じのようにばんたね病院の内科は、専門領域別に分かれており、それぞれが高いレベルで診療しております。しかしながら、高齢化が進むにつれ、多臓器にまたがる問題を抱えた患者さんが増えてきています。したがって、各専門領域が機能的にまとまることで、さらに効率の良い質の高い診療ができるものと確信しております。また内科としてまとまることで、地域連携がより取りやすくなることも期待しております。ただし、診療科の標榜はこれまで通りですので、紹介あるいはお問い合わせについては従来通りで問題ありません。

腎臓領域に関しては、慢性腎臓病中心の診療を展開いたします。慢性腎臓病においては原疾患の診断が非常に重要になります。原疾患不詳のままフォローすると予期しない経過をたどることもあります。したがって腎機能低下患者さんを診られた場合、まずは一度ご紹介いただくと幸いです。

最後に、内科として、「医療を通じて地域と共生するばんたね病院」を目標とし、地域医療に貢献したいと強く思っております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

小児科のご紹介

ご挨拶

当科は地域に根差した小児科としての総合的な診療を行っています。アレルギー疾患を中心に、腎臓や神経、心臓の専門医による外来も設置しております。特にアレルギーに関しては大学病院として高度かつ最先端の医療を提供いたします。

また、当院は病診連携に尽力しており、当院に受診後はご紹介頂いた先生へ報告書を作成しております。ご心配なことがあれば、入院病床もありますのでぜひご相談ください。

緊急性のない疾患の場合は、当院のホームページから診療予約が可能ですのでぜひご利用ください。



教授 近藤 康人

アレルギー疾患



当院は愛知県のアレルギー拠点病院として小児科を含むアレルギー診療を行う6科が連携して総合アレルギーセンターを開設しており、様々なアレルギー疾患の患者さんをご紹介いただいています。

特色

- アレルギーの専門知識を持った医療スタッフである小児アレルギーエデュケーター (PAE) による吸入指導、アトピー性皮膚炎のスキンケア指導を行っています。また、重症な皮膚炎では入院で治療を行います。
- 喘息疾患を対象にした可逆性試験、運動誘発試験など特殊な呼吸機能検査を行っています。
- 5歳以上のアレルギー性鼻炎の患者さんはスギとダニの舌下免疫療法を行っています。

食物アレルギーについて

食物アレルギーの診療は「安全に食べられる量」を食べることが治療になります。しかし、家庭で「安全に食べられる量」を判断することは時に危険を伴いますので、アナフィラキシー歴があったりIgE高値の例では食物経口負荷試験は病院で行うことが望ましいです。当科では、他病院では摂取量が微量のために完全除去が望ましいと指示された重症食物アレルギー患者様であっても、低アレルゲン化食品を利用した治療など、食べられる量をできるだけ探していくための負荷試験も行なっております。また、アレルギーに精通した栄養士による食事指導も行っています。



当院の経口負荷試験の特徴

食物アレルギーの診断をする上で、食物経口負荷試験は最も確実な診断方法であり、確定診断を目的として実施しています。年間約2000件と、日本有数の件数です。

- ①完全除去ではなく、「必要最低限の除去」を実践すべく微量の負荷試験を行っています。卵、小麦0.1g、牛乳は0.1ml以下の微量の抗原による負荷試験が例にあげられます。微量負荷試験を行い、負荷試験結果に基づき「加工食品早見表」を使用しながら極少量の抗原摂取を目的とした食事指導をおこなっています。
- ②パウダーによる生卵の経口負荷試験を行っています。
- ③食物依存性運動誘発アナフィラキシーを診断する目的で、運動誘発試験を行っています。
- ④魚アレルギー、重症果物アレルギー、乳児の消化管アレルギー、薬剤アレルギーなどの患者様への負荷試験も行っています。

実際に負荷試験をどのように行っているかは、右記のQRコードからアクセスいただき参照してください。



<https://www.youtube.com/watch?v=eU4839lBIDc&feature=youtu.be>

腎臓疾患 夜尿症(おねしょ)



腎臓領域では主に、蛋白尿・血尿などの検尿異常、ネフローゼ症候群や腎炎などの糸球体疾患、先天性腎尿路異常などの泌尿器疾患、夜尿症の診療を行っています。

糸球体疾患は健診や学校検尿での異常を契機に発見されることがあります。放置すると腎機能障害が進行する場合があります。そのため、血尿や蛋白尿が続く場合はご紹介ください。

腎生検による診断や専門性の高い治療が必要な患者様は豊明にある藤田医科大学病院小児科と連携して実施しております。

その後、状態が落ち着いたら当院で定期診療を行いつつ、風邪など体調不良時の対応や予防接種については紹介医に連携していただきながら診療を行っています。

泌尿器疾患の中で、一般外来で多いものは尿路感染症です。小児では尿路感染症の原因として膀胱尿管逆流症などの尿路異常を認めることが比較的多く、尿路感染症の反復により腎障害が進行する場合があります。手術が考慮される症例は藤田医科大学病院等の小児泌尿器科に紹介しています。

夜尿症は、ほとんどは成長とともに自然治癒しますが、生活指導や薬物治療・アラーム療法により早く治癒できる可能性があります。夜尿症診療でお困りの際は当院に是非ご紹介ください。



神経疾患



神経領域では、主にけいれん(有熱性、無熱性)の精査、てんかんの診断・治療を中心に診療を行っています。実施できる検査としては血液検査、尿検査などの一般的なスクリーニング検査をはじめ、脳波検査や頭部MRI画像についても必要に応じて実施しております。また、さらに長期脳波ビデオ同時記録検査、PET-CTやSPECTなどより高度な医療を必要とした場合には、藤田医科大学病院小児科と連携を取って診療を行っています。

熱性けいれんは生後6か月から60か月までの乳幼児期に起こる発熱に伴う発作性疾患であり、我が国の有病率は7～11%と諸外国よりも多く報告されています。2015年には日本小児神経学会から熱性けいれん診療ガイドラインが刊行されておりますが、家族の不安に対する対応や再発予防法、予防接種についてなど日常の診療でお困りの点がございましたら、ぜひご紹介ください。



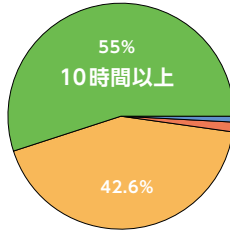
TOPICS トピックス

～マスク使用における皮膚トラブルについて～

新型コロナウイルス対策のため就業時に限らず日常生活においてもマスクの装着が推奨されており、皮膚トラブルや息苦しさなどマスク装着に対して苦慮されていることと存じます。当院では職員に向け緊急アンケートを実施いたしましたので御紹介致します。(回答者数451名)

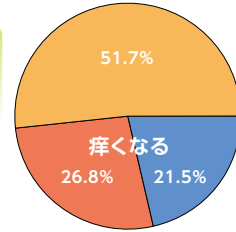
通勤中および就業時間を含め、1日にマスクを装着する時間は大体どのくらいですか？

- 3時間以内
- 3～5時間
- 6～10時間
- 10時間以上



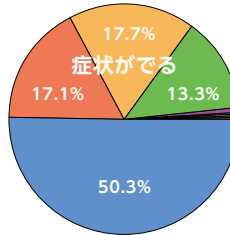
就業中、マスクが当たる部位の皮膚が痒くなることはありますか？

- 痒くなる
- 時間がたつと痒くなる
- 痒くならない



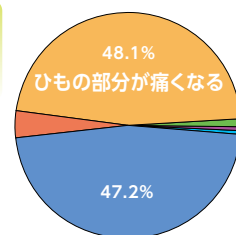
就業中、マスクが当たる部位の皮膚が赤くなったり、ぶつぶつができることはありますか？

- 何も生じない
- 皮膚が赤くなる
- 皮膚にぶつぶつができる
- 皮膚が赤くなるし、ぶつぶつもできる
- ニキビ等肌荒れがしやすくなった気がする
- べたつく
- 皮膚がヒリヒリする
- マスクの種類によりなったことがある
- ヘルペス



マスクのゴムやひもで、耳の周囲に症状が誘発されますか？

- なにも症状はない
- ひも部分が痒くなる
- ひも部分が痛くなる
- 血が出る
- 痛い症状はない
- かぶれている



新型コロナウイルス対策 ～マスクと共に生活していくために～



マスクのヒモによる耳の痒みや痛みの写真

肌荒れ

- ☑ 朝夕保湿をしましょう
- ☑ 痒みや湿疹が続いたら痒み止めを塗りましょう
- ☑ 皮膚への刺激が少ないマスクを選択しましょう
- ☑ シミになって残らないようにする事が大切です



皮疹が治らない場合は塗っている薬剤が適切ではない、塗布する量が足りていないなどが挙げられます

ニキビ

- ☑ マスクによる蒸れや摩擦によってニキビができません。なるべく通気性がよく、摩擦の少ないマスクが重要です
- ☑ ニキビは触れば触るほど治りません。触れないように心がけましょう
- ☑ 痕が残らないように、治りづらいニキビは受診をお勧めします(ニキビ痕は長期的に残ります)



肌をやさしく自分に合ったマスクを選びましょう。
マスクによる湿疹やニキビは放置せずに治しましょう。

藤田医科大学 ばんだね病院
総合アレルギー科 教授 矢上晶子



【編集発行】  藤田医科大学ばんだね病院 地域医療連携センター

【発行年月日】 2020年11月20日

〒454-8509 名古屋市市中川区尾頭橋3-6-10

TEL:052-321-8171(代表)052-323-5927・5918(地域医療連携センター直通)

FAX:052-323-5726(地域医療連携センター直通) <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

